

養護教諭に求められる ICT 活用指導力 ICT utilization teaching ability required for *Yogo* teacher

大川 尚子
(京都女子大学発達教育学部)

岩崎 保之
(関西大学文学部)

後尾 結女
(岡山大学大学院教育学研究科)

石井 有美子
(徳島大学大学院医歯薬学研究部)

抄録

養護教諭は、学校保健に関する校務で日常的に ICT を活用している。また、近年では保健教育の授業や指導を行う機会が増えてきていることから、養護教諭も教科等の授業を担当する教員と同じように「授業に ICT を活用して指導する能力」を向上させることが必要となってきている。養護教諭を対象に ICT の活用状況を調査し、養護教諭に求められる「ICT 活用指導力」の実態を明らかにした。調査の結果、経験年数や校種によって、ICT 活用指導力に違いがあることが判明した。また、学生の結果との比較により、養成段階において「ICT 活用指導力」を育成するための授業や取組を経験することが、養護教諭の ICT 活用指導力を高めることにつながることを示唆された。

キーワード：養護教諭、ICT 活用、ICT 活用指導力、コロナ禍

1. 緒言

2019 年 12 月に、文部科学大臣によるメッセージ「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての 1 人 1 台端末環境～」¹⁾ がだされ、GIGA スクール構想が開始された。

そこへ、2020 年に新型コロナウイルス感染症の流行拡大という事態が起これ、学校では当初の予定よりも早く情報端末の整備が前倒し実施されることとなった。

中央教育審議会においては、2021 年 1 月に『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～(答申)』²⁾ を公表した。同答申においては、教員の「ICT 活用指導力」の更なる向上を求めている。「ICT 活用指導力」とは、第 3 期教育振興基本計画における「ICT 利活用のための基盤の整備」の測定指標として文部科学省が 2007 年に策定したものであり、チェックリスト化した様式による教員

調査が毎年行われている。

2018 年に一部改訂された「ICT 活用指導力」³⁾ は、【A 教材研究・指導の準備・評価・校務などに ICT を活用する能力】【B 授業に ICT を活用して指導する能力】【C 児童生徒の ICT 活用を指導する能力】【D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力】という 4 つの大項目と、大項目の下位に分類される 16 の小項目から構成されている。授業だけでなく校務での ICT 活用も含まれていることから、文部科学省は「ICT 活用指導力」を「すべての教師に求められる基本的な資質能力である」と説明している⁴⁾。

養護教諭は、学校保健に関する校務で日常的に ICT を活用している。また、近年では保健教育の授業や指導を行う機会が増えてきていることから、養護教諭も教科等の授業を担当する教員と同じように「授業に ICT を活用して指導する能力」を向上させることが必要となってきている⁵⁾。

大学が教職課程を編成する際の指針である

「教職課程コアカリキュラム」⁶⁾は、2021年度に改訂され、各教科教育法の内容に情報通信技術の活用を含め、新たに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を1単位以上必修とすることとなったが、養護教諭はその対象外とされている。

しかし、養護教諭の職務で考えると、健康観察に Google クラウドルームなどを活用したり、健康相談にタブレットなどを活用してオンラインで実施したり、感染症予防教育などの保健教育をオンデマンドで配信したり、関係機関との連携のためにオンライン会議をしたりするなど、ICTを活用した養護教諭の取り組みが紹介されるようになってきている。すでに、不登校傾向の児童生徒対象にオンライン保健室やオンライン健康相談も実施されている。

日本養護教諭関係団体連絡会が、2020年10月に「養護教諭のコンピュータ環境調査」⁷⁾を実施した。調査結果によると、養護教諭のコンピュータ環境は、学校におけるパソコンやインターネット環境はほぼ整っているものの、個人のパソコンやスマートフォンの使用、保健室のWi-Fi環境が整備されていない、メールの容量制限がある、オンライン会議の環境が整わないなど、今後の環境整備の必要性が示された。また、学校のホームページでの学校保健計画、保健室経営計画、保健だよりの情報発信の低さが示され、養護教諭が学校保健活動を多様な形で発信する必要性が示されたと報告されている。

新型コロナウイルス感染症拡大による新しい生活様式や、新しい学校環境における教育が進められるなか、養護教諭にもオンラインでの情報伝達や共有が必要となっており、研修会や会議が対面で行いづらい現状においては、学校や保健室の web 環境の充実が緊急の課題である。

また、深刻化する子どもの現代的な健康課題の解決に向けて、学級担任や教科担任等と連携し、養護教諭の有する知識や技能などの専門性を保健教育に活用することがより求められていることから、学級活動などにおける保健指導はもとより専門性を生かし、ティーム・ティーチングや兼職発令を受け保健の領域にかかわる授

業を行うなど保健学習への参画が増えており、養護教諭の保健教育に果たす役割が増している⁸⁾。そのため、養護教諭も教科等の授業を担当する教員と同じように「授業にICTを活用して指導する能力」を向上させることが必要となってきた。養護教諭を対象にICTの活用状況を調査し、養護教諭に求められる「ICT活用指導力」の実態を明らかにすることを目的としている。

2. 対象と方法

1) 対象

2022年7月～8月に開催された養護教諭研修会に参加した養護教諭と2021年度にICTを活用した授業を受講した養護教諭を目指す学生⁹⁾を対象とした。

2) 方法

養護教諭版「ICT活用指導力」に関する自己認識（26項目）⁹⁾についてGoogleフォームを活用し、無記名自記式質問紙調査を実施した。調査時期は、養護教諭は2022年、学生は2021年であり、養護教諭は106人、学生（ポスト調査）は23人から回答を得た。

3) 分析方法

統計解析は、統計処理ソフト（SPSS Statistics 24）を用い、校種別比較は分散分析の後Tukeyの多重比較、経験年数別比較、学生との比較はt検定をし、有意水準は5%未満とした。学生との比較は、ポスト調査⁹⁾の結果を使用した。

4) 倫理的配慮

研究に先立ち、研究の目的、概要、回答は自由であること、プライバシーの保護、データの管理は厳重に行うこと等の倫理的配慮について、研修会を開催する教育委員会に口頭と文章で説明した後、承認を得て行った。調査票に回答することをもって、協力への同意とした。調査で得た個人的データは、厳重に保管し匿名性を保持できるように記号化しデータ処理を行った。

3. 結果

1) 経験年数

10年目以下は18人(17.0%)、11～20年目は50人(47.1%)、21～30年目は18人(17.0%)、31年目以上は20人(18.9%)という結果であった。

2) 校種

小学校は21人(19.8%)、中学校は7人(6.6%)、高等学校は53人(50.0%)、特別支援学校は25人(23.6%)という結果であった。

3) 養護教諭版「ICT活用指導力」

養護教諭版「ICT活用指導力」に関する自己認識の結果を表1に示す。

4) 経験別比較

養護教諭としての経験年数10年以下と11年以上の比較の結果を表1に示す。

【A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力】の「授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する」の項目で経験年数が多い方の自己認識が高い傾向がみられた。【D 情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力】の「児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気づき、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する」の項目で経験年数の多い方の自己認識が低い傾向がみられた。

また、独自項目として追加した【E 学校保健活動・保健室経営・保健組織活動などにICTを活用する能力】の「保健室の物品を管理するために、表計算ソフトを活用する」「児童生徒の健康データを分析するために、表計算ソフトを活用する」「日本スポーツ振興センターへの申請業務のために、専用ソフトを活用する」の項目で経験年数の多い方の自己認識が有意に高値であった。

5) 校種別比較

校種別(小・中学校、高等学校、特別支援学校)にわけて比較した結果を表2に示す。

【B 授業にICTを活用して指導する能力】の

「グループで話し合っただけ考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる」の項目で差がみられた。小・中学校の自己認識が高等学校より有意に低値であった。

【C 児童生徒のICT活用を指導する力】の「児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する」の項目で差がみられ、高等学校の自己認識が特別支援学校よりも有意に高値であった。

【D 情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力】の「児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する」の項目で差がみられ、高等学校の自己認識が小・中学校よりも有意に高値であり、「児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気づき、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する」の項目で高等学校の自己認識が特別支援学校よりも高い傾向であった。

また、【E 学校保健活動・保健室経営・保健組織活動などにICTを活用する能力】の「保健室経営に必要な書類を作成するために、ワープロソフトを活用する」の項目で高等学校の自己認識が特別支援学校よりも高い傾向であった。

6) 学生との比較

2021年に実施したポスト調査⁹⁾と比較した結果を表3に示す。

【B 授業にICTを活用して指導する能力】の「知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組みさせる」「グループで話し合っただけ考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなど

表1 全体・経験別 ICT 活用指導力

	全体		10年以下		11年以上		t 値
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力							
A-1 教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	3.04	0.68	2.95	0.62	3.05	0.69	0.569
A-2 授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。	3.23	0.68	3.11	0.66	3.24	0.69	0.766
A-3 教育委員会や学校医などから指示を受けたり、相談・報告をしたりするために、電子メールを活用する。	3.71	0.66	3.47	0.84	3.74	0.63	1.554
A-4 授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料を作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	3.58	0.62	3.32	0.67	3.61	0.61	1.885 †
A-5 学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	2.67	0.89	2.84	0.83	2.61	0.92	1.001
B 授業にICTを活用して指導する能力							
B-1 児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	2.71	0.77	2.84	0.83	2.66	0.77	0.924
B-2 児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	2.27	0.82	2.21	0.98	2.27	0.80	0.296
B-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。	2.07	0.77	1.89	0.66	2.09	0.80	1.001
B-4 グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	2.25	0.87	2.21	0.92	2.24	0.87	0.126
C 児童生徒のICT活用を指導する能力							
C-1 学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	2.50	0.82	2.42	0.77	2.50	0.84	0.375
C-2 児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	2.61	0.80	2.58	0.77	2.60	0.82	0.113
C-3 児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	2.58	0.87	2.37	0.76	2.61	0.90	1.102
C-4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	2.42	0.76	2.37	0.68	2.42	0.78	0.268
D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力							
D-1 児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	2.75	0.68	2.53	0.77	2.77	0.67	1.409
D-2 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	2.92	0.61	2.79	0.71	2.93	0.62	0.882
D-3 児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	2.46	0.65	2.53	0.77	2.43	0.64	0.562
D-4 児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気づき、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	2.37	0.75	2.63	0.76	2.30	0.75	1.776 †
E 学校保健活動・保健室経営・保健組織活動などにICTを活用する能力 ※独自調査項目							
E-1 保健室の物品を管理するために、表計算ソフトを活用する。	3.14	0.91	2.53	0.96	3.25	0.87	3.213 **
E-2 児童生徒の健康データを分析するために、表計算ソフトを活用する。	3.36	0.73	2.79	0.92	3.45	0.68	3.633 ***
E-3 児童生徒の健康データを管理するために、校内ネットワークを活用する。	3.35	0.77	3.16	0.96	3.40	0.72	1.238
E-4 日本スポーツ振興センターへの申請業務のために、専用ソフトを活用する。	3.76	0.59	3.32	1.00	3.86	0.41	3.894 ***
E-5 保健だよりを作成するために、ワープロソフトを活用する。	3.81	0.46	3.79	0.42	3.82	0.47	0.247
E-6 保健教育の教材を作成するために、プレゼンテーションソフトや画像・映像編集ソフトを活用する。	3.54	0.68	3.42	0.69	3.57	0.67	0.858
E-7 教職員の研修会のために、プレゼンテーションソフトを活用する。	3.52	0.69	3.42	0.69	3.52	0.71	0.568
E-8 保健室の情報発信のために、ホームページ作成ソフトを活用する。	2.34	0.97	2.42	1.02	2.33	0.97	0.371
E-9 保健室経営に必要な書類を作成するために、ワープロソフトを活用する。	3.74	0.52	3.68	0.48	3.75	0.53	0.498

(† $p<0.1$, ** $p<0.01$, *** $p<0.001$)

の学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる」の項目で、学生の自己認識が有意に高値であり、「児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する」の項目で学生の自己認識が高い傾向であった。

【C 児童生徒の ICT 活用を指導する能力】の「学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する」「児童生徒がコンピュータやインタ

ーネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する」「児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する」「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する」の全ての項目で学生の自己認識が有意に高値であった。

養護教諭に求められる ICT 活用指導力

表 2 校種別 ICT 活用指導力

	小・中学校(n=28)		高等学校(n=53)		特別支援(n=25)		F値	p値	多重比較
	平均	SD	平均	SD	平均	SD			
A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力									
A-1 教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	2.96	0.69	3.08	0.70	3.04	0.61	0.25		
A-2 授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。	3.14	0.65	3.25	0.73	3.28	0.61	0.31		
A-3 教育委員会や学校医などから指示を受けたり、相談・報告をしたりするために、電子メールを活用する。	3.57	0.79	3.83	0.51	3.60	0.76	1.86		
A-4 授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	3.50	0.64	3.64	0.62	3.52	0.59	0.61		
A-5 学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	2.57	0.92	2.79	0.91	2.52	0.82	1.03		
B 授業にICTを活用して指導する能力									
B-1 児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	2.68	0.77	2.66	0.81	2.84	0.69	0.49		
B-2 児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	2.00	0.86	2.36	0.81	2.40	0.76	2.17		
B-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。	1.89	0.83	2.17	0.78	2.04	0.68	1.20		
B-4 グループで話し合ったり考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	1.86	0.80	2.40	0.91	2.36	0.76	4.01	*	小・中<高
C 児童生徒のICT活用を指導する能力									
C-1 学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	2.46	0.84	2.58	0.84	2.36	0.76	0.67		
C-2 児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	2.54	0.69	2.72	0.86	2.48	0.77	0.92		
C-3 児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	2.46	0.84	2.79	0.82	2.28	0.94	3.46	*	高>特
C-4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	2.29	0.71	2.57	0.77	2.28	0.74	1.89		
D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力									
D-1 児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	2.54	0.69	2.91	0.63	2.64	0.70	3.27	*	小・中<高
D-2 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	2.82	0.61	3.00	0.59	2.88	0.67	0.86		
D-3 児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	2.46	0.69	2.53	0.64	2.32	0.63	0.87		
D-4 児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	2.43	0.74	2.47	0.75	2.08	0.70	2.53	†	高>特
E 学校保健活動・保健室経営・保健組織活動などにICTを活用する能力 ※独自調査項目									
E-1 保健室の物品を管理するために、表計算ソフトを活用する。	2.93	0.98	3.32	0.87	3.00	0.87	2.15		
E-2 児童生徒の健康データを分析するために、表計算ソフトを活用する。	3.39	0.63	3.40	0.84	3.24	0.60	0.42		
E-3 児童生徒の健康データを管理するために、校内ネットワークを活用する。	3.43	0.79	3.34	0.83	3.28	0.61	0.25		
E-4 日本スポーツ振興センターへの申請業務のために、専用ソフトを活用する。	3.64	0.78	3.85	0.50	3.72	0.54	1.20		
E-5 保健だよりを作成するために、ワープロソフトを活用する。	3.86	0.45	3.83	0.47	3.72	0.46	0.67		
E-6 保健教育の教材を作成するために、プレゼンテーションソフトや画像・映像編集ソフトを活用する。	3.54	0.69	3.57	0.72	3.48	0.59	0.13		
E-7 教職員の研修会のために、プレゼンテーションソフトを活用する。	3.54	0.64	3.55	0.75	3.44	0.65	0.21		
E-8 保健室の情報発信のために、ホームページ作成ソフトを活用する。	2.54	1.14	2.28	0.97	2.24	0.78	0.78		
E-9 保健室経営に必要な書類を作成するために、ワープロソフトを活用する。	3.71	0.60	3.83	0.43	3.56	0.58	2.37	†	高>特

(† p<0.1, * p<0.05)

【D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力】の「児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する」「児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する」「児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する」の項目で学生の自己認識が高値であった。

しかし、【E 学校保健活動・保健室経営・保健

組織活動などに ICT を活用する能力】に関しては、すべて学生の自己認識が低値であった。

4. 考察

養護教諭を対象に ICT の活用状況を調査し、養護教諭に求められる「ICT 活用指導力」の実態を明らかにした。

1) 経験別比較について

経験別比較では、【A 教材研究・指導の準備・評価・校務などに ICT を活用する能力】の「ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する」という基礎的なパソコン活用能力の項目では経験年数が多い方が自己認識が高い傾向がみられた。また、【D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導

する力】の「児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する」という保健教育に必要な ICT 活用指導力の項目では経験年数の少ない方が高い傾向がみられた。

これは、養護教諭の役割について、中央教育審議会（2008年）⁸⁾で、深刻化する子どもの現代的な健康課題の解決に向けて、保健教育の充実や子どもの現代的な健康課題に対応した看護学の履修内容の検討を行うなど、教員養成段階における教育を充実する必要があると明言しており、その後、養護教諭の保健教育の指導力向上のための養成教育が強化されたことによるものと考えられる。

また、独自項目として追加した【E 学校保健活動・保健室経営・保健組織活動などに ICT を活用する能力】では、経験年数の多い方に有意に自己認識が高値であり、学生との比較でも同様の傾向であったことから、養護教諭の「ICT 活用力」は経験によって高めることができることが示唆された。

2) 校種別比較について

校種別比較では、【B 授業に ICT を活用して指導する能力】の「グループで話し合っただけを考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる」の項目では、小・中学校の自己認識が有意に低値であった。「学校保健の課題とその対応—令和2年度改訂—」¹⁰⁾によると、学級活動における保健の指導（授業）を実施している養護教諭の割合は、中・高等学校において低かった。また、体育科・保健体育科における保健の指導を実施している養護教諭の割合は、小学校に比べ中・高・特別支援学校において低かったと報告されている。すなわち、学校段階があがっていくほどに保健教育の実施率は低くなっているが、今回の調査では、児童生徒対象に保健教育を実際に行っている小・中学校の養護教諭の方が、ICT 活用指導力不足を認識しているという結果になった。その理由としては考

えられるのは、小学校においては、グループ活動でレポートや資料などを作成する際、画用紙や模造紙などの紙媒体で作成する機会が多いことがあげられる。総合的な学習の時間などでは、プレゼンテーションソフトを活用して発表資料を作成することもあるが、養護教諭が行う保健教育の時間数は限られる。授業の中で養護教諭自身が ICT を活用して指導を行うことはあるものの、児童自身に ICT を活用させて授業展開する機会が少ないことが影響していると推察される。

3) 学生との比較について

2020年度に実施した「養護教諭を目指す学生の ICT 活用指導力」⁹⁾の結果と比較したところ、

【B 授業に ICT を活用して指導する能力】【C 児童生徒の ICT 活用を指導する能力】【D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力】の項目で学生の自己認識が高値であったことから、養成段階から意識して ICT 活用指導力を高める授業や取組をすることは重要であると考えられる。

文部科学省は、2022年度からの教員養成課程では、「令和の日本型学校教育」答申²⁾の提言を踏まえた ICT 活用に関する修得促進に向け、教職課程で学生が小中高校の教員免許を取得する際、ICT（情報通信技術）を活用した教育に関する科目の履修を義務付け、教職課程の中に新たな必修科目として「情報通信技術を活用した教育の理論と方法」を設け、1単位以上の取得を求め、端末を効果的に使った各教科の指導、デジタル教材の作成、遠隔教育の実施方法などを身につける。また、児童生徒の情報活用能力や、情報を扱う際のモラルを育てるための指導法なども学ぶために、2022年4月に入学する学生から適用した。

養護教諭免許と合わせて、中学校・高等学校教員免許（保健）を取得する場合は、ICTに関する科目が必修となるため学習機会があるが、養護教諭免許のみを取得する場合は、学修する機会が少ない現状がある。限られた授業時間で指導する内容と、課外活動などの授業時間外で学生が自己学修する内容とを精選し、ICT 活用

養護教諭に求められる ICT 活用指導力

表 3 学生との比較

	養護教諭 (n=106)		学生 (n=23)		t 値
	平均	SD	平均	SD	
A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力					
A-1 教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場を計画して活用する。	3.03	0.68	3.13	0.82	0.240
A-2 授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。	3.21	0.69	3.13	0.63	0.671
A-3 教育委員会や学校医などから指示を受けたり、相談・報告をしたりするために、電子メールを活用する。	3.69	0.68	3.70	0.47	0.286
A-4 授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料を作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	3.56	0.63	3.39	0.58	1.455
A-5 学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	2.65	0.90	2.78	0.85	1.216
B 授業にICTを活用して指導する能力					
B-1 児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	2.69	0.78	3.35	0.57	0.958
B-2 児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	2.26	0.83	3.13	0.76	1.874 †
B-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに組みこませる。	2.06	0.77	2.83	0.89	2.451 *
B-4 グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	2.23	0.88	2.83	0.78	8.211 ***
C 児童生徒のICT活用を指導する能力					
C-1 学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	2.49	0.83	2.82	0.73	3.218 **
C-2 児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	2.60	0.81	2.73	0.70	3.794 ***
C-3 児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	2.57	0.88	2.55	0.80	2.147 *
C-4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	2.41	0.76	2.77	0.87	6.532 ***
D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力					
D-1 児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	2.73	0.69	3.09	0.61	0.290
D-2 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	2.91	0.64	3.19	0.60	3.288 **
D-3 児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	2.45	0.66	3.05	0.58	4.394 ***
D-4 児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	2.36	0.76	2.95	0.72	2.672 **
E 学校保健活動・保健室経営・保健組織活動などにICTを活用する能力 ※独自調査項目					
E-1 保健室の物品を管理するために、表計算ソフトを活用する。	3.12	0.93	2.91	0.95	1.541
E-2 児童生徒の健康データを分析するために、表計算ソフトを活用する。	3.34	0.76	2.87	0.82	3.617 ***
E-3 児童生徒の健康データを管理するために、校内ネットワークを活用する。	3.36	0.77	2.61	0.94	3.653 ***
E-4 日本スポーツ振興センターへの申請業務のために、専用ソフトを活用する。	3.77	0.59	2.48	0.85	8.245 ***
E-5 保健だよりを作成するために、ワープロソフトを活用する。	3.81	0.46	3.74	0.45	8.126 ***
E-6 保健教育の教材を作成するために、プレゼンテーションソフトや画像・映像編集ソフトを活用する。	3.54	0.68	3.09	0.73	3.171
E-7 教職員の研修会のために、プレゼンテーションソフトを活用する。	3.50	0.71	3.39	0.58	2.396
E-8 保健室の情報発信のために、ホームページ作成ソフトを活用する。	2.35	0.97	2.23	0.81	3.126 **
E-9 保健室経営に必要な書類を作成するために、ワープロソフトを活用する。	3.74	0.52	3.48	0.59	6.150 *

(† $p<0.1$, * $p<0.05$, ** $p<0.01$, *** $p<0.001$)

指導力を高める方策の検討を早急に進めていく必要があるとともに、養護教諭の養成課程にも ICT を活用した教育に関する科目の履修を義務付け、教職課程の中に新たな必修科目として「情報通信技術を活用した教育の理論と方法」を設ける必要があると考える。

また、GIGA スクール構想を推進していくと、整備内容や教員の指導力の学校間格差や養護教諭のスキルや意欲に個人差があるので、積極的に研修会に参加するなど、ICT 活用の促進を図る必要がある。ICT 活用をすることで、不登

校や病気で学校に来られない子供、周囲の目を気にして保健室に入れられない子供も支援でき、より多くの悩みを受けとめることができ、ICT を活用することで、子供と向き合う時間がふえることを考えると養護教諭の ICT 活用や ICT 活用指導力を高める研修会が期待される。

なお、本研究はアンケート調査について限定された標本数を対象に分析を行った。そのため、上記考察も限定された解釈に基づいて行われたことを、本研究の限界として付言する。

5. 結論

養護教諭を対象に ICT の活用状況を調査し、養護教諭の「ICT 活用指導力」の実態を明らかにした。調査の結果、経験年数や校種によって、ICT 活用指導力に違いがあることが判明した。

また、学生の結果との比較により、養護教諭の「ICT 活用力」は経験によって高めることができる。加えて、養成段階において、「ICT 活用指導力」を育成するため授業や取組を経験することが「ICT 活用指導力」を高めることにつながることを示唆された。

謝辞

調査にご協力してくださった養護教諭の先生方に感謝を申し上げます。

文献

- 1) 文部科学省 (2019): 子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての 1 人 1 台端末環境～《文部科学大臣メッセージ》,
https://www.mext.go.jp/content/20191225-mxt_syoto01_000003278_03.pdf
- 2) 文部科学省 (2021): 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (答申),
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf
- 3) 文部科学省 (2018): 教員の ICT 活用指導力チェックリスト,
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/05/17/1416800_001.pdf
- 4) 文部科学省 (2020): 教育の情報化に関する手引 (追補版), p188.
- 5) 岩崎保之: ICT を活用した授業づくり, 学校教育の現代的課題と養護教諭 (河田史宝監修・岩崎保之・大川尚子・塚原加寿子編著), 大学図書出版, pp100-105.
- 6) 文部科学省 (2021): 「教職課程コアカリキュラム」,
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/11/27/1398442_1_3.pdf
- 7) 日本養護教諭関係団体連絡会 (2020): 「養護教諭のコンピュータ環境調査」,
<https://jytc.org/report1/>
- 8) 文部科学省 (2008): 「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」(答申),
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2009/01/14/001_4.pdf
- 9) 岩崎保之, 大川尚子, 井澤昌子 (2022): 養護教諭の養成段階において「ICT 活用指導力」を育成するための要件, 京都女子大学生活福祉学科紀要第 17 号, pp1-11.
- 10) 公益財団法人日本学校保健会 (2020): 学校保健の課題とその対応－養護教諭の職務等に関する調査結果から－ (令和 2 年度改訂), p52.